四次元冷蔵庫

伊藤貴晴　作

【登場人物】

 男１　高校生

 男２　高校生

 男３　高校生

 電気部の部室。男１と男２が椅子に座っている。

男１ ごはんがあって、味噌汁があって、ハンバーグにエビフライが入ってんの

男２ うまそうだな

男１ だろ？

男２ 定食でもそういうメニューあるし

男１ え？　あるの？

男２ あるよ。ハンバーグアンドエビフライとか

男１ 違う違う。アンドじゃない。イン

男２ イン？

男１ エビフライ、イン、ハンバーグ

男２ 何それ？

男１ だから、ハンバーグにエビフライが入ってんの

男２ ごめん、うまく想像できない

男１ うまいよ

男２ うまそうだとは思う

男１ 今さ、色々うまい食べ物を探してるんだけど

男２ そうなんだ

男１ 世界三大珍味って何だっけ？

男２ キャビア、フォアグラ、トリュフ

男１ キャビアって何？

男２ チョウザメの卵

男１ サメなんだ

男２ サメじゃないよ。チョウザメだよ

男１ サメじゃん

男２ 違うんだって

男１ 何が違うの？

男２ 何がって言われると、よく分かんないけど

男１ 似たようなもんじゃない？

男２ そうなのかな

男１ サメって卵産むの？

男２ 産むんじゃない？

男１ イクラって何の卵？

男２ サケ

男１ たらこは？

男２ タラ

男１ ナマコって何の卵？

男２ ナマコは卵じゃない

男１ ふーん。カニの卵はかに玉？

男２ 違うよ

男１ そうなんだ。世界三大珍味って何だっけ？

男２ キャビア、フォアグラ、トリュフ

男１ フォアグラって何？

男２ ガチョウの肝臓

男１ 肝臓？

男２ うん

男１ レバーか

男２ そうだけど、何か違う気がする

男１ でもレバーでしょ？

男２ そうだけどさ

男１ 何が違うの？

男２ 味だろ？

男１ うまいのかな？

男２ 多分

男１ 世界三大珍味って何だっけ？

男２ キャビア、フォアグラ、トリュフ

男１ トリュフって、きのこだよね？

男２ そうだよ

男１ 松茸か

男２ 違うよ

男１ きのこでしょ？

男２ きのこにも色々あるだろ？

男１ シイタケとか、エノキダケとか、ドコモダケとか

男２ ドコモダケは食べないだろ

男１ ドコモダケは食べない

男２ うん

男１ ドコモダケって何食べるの？

男２ 知るか

男１ 世界三大珍味って何だっけ？

男２ キャビア、フォアグラ、トリュフ

男１ キャビアって何だっけ？

男２ いい加減覚えろよ

男１ キャビアってフォアグラ？

男２ 違います

男１ 食べてみたいな。高級食材なんて食べる時ないからさ

男２ まあな

男１ 一回でいいから食べてみたいな。ツバメの巣とか

男２ ああ

男１ まずそうだよな、ツバメの巣

男２ お前が何を想像してるか何となく分かる

男１ 何か変わった食べ物ってないかな？

男２ 何？　お前、そういう趣味なの？

男１ そういうわけじゃないけど、いろんな物食べてみたいんだ

男２ なるほどね

男１ プリンにしょうゆかけるとウニの味がするらしいよ

男２ よくある話だな

男１ 結構うまかったよ

男２ そうなの？

男１ きゅうりにハチミツかけるとメロンの味がするんだよ

男２ へぇ

男１ まぐろが成長すると大トロになるんだよ

男２ それは何か違うんじゃないか？

男１ きゅうりに塩をかけるとおいしいよ

男２ そうだな

 男３登場。

男１ あれ？　男３

男２ 遅かったじゃないか

 男３、冷蔵庫を開け、プリンを取り出す。

男３ やっと見つけた。俺のプリン

男１ 何言ってるんだよ。自分で入れたんだろ

男３ あ、そっか。てことはまだ俺が来る前だから

男２ 何言ってんの？

男３ いや、何でもないよ

男１ どうだった？　文化祭の話

男３ あぁ、それはオッケー

男１ 本当？　よかった

男２ 文化祭の話って何？

男１ 文化祭の出し物

男２ どこの？

男３ 俺達のだよ

男２ 何かやるの？

男３ やるに決まってるだろ。文化祭なんだから

男２ 適当に何か作ってりゃいいじゃん

男１ そんなやる気のないことでどうする若者

男２ いいよ、やる気なくて

男３ 男２も出るんだからな

男２ 出るって、何？

男３ 脚本見せたんだろ？

男１ うん

男２ この前の脚本って文化祭用なのか？

男１ そうだよ

男３ いいだろ？

男２ 俺達、電気部だよ？

男３ そうだよ

男２ 何で劇なんかやるの？

男１ おもしろそうだから

男２ しかもあれは劇っていうか、コントだろ

男３ お笑いっていつの時代も人気あるじゃない。目立てるよ

男２ 目立ちたくないんだよ

男３ 何でだよ。男１がせっかく脚本書いてくれたのに

男１ 一生懸命書きました

男２ やらない

男３ でも、もう申請しちゃった

男２ 勝手なことするなよ

男３ あ、俺もう行かなきゃいけないから。じゃ

 男３退場。

男２ ちょっと待て。おい

男１ 行っちゃった

男２ 何でそんな話になってるんだよ？

男１ いいじゃん、おもしろそうだし

男２ 電気部だよ？

男１ 関係ないよ

男２ 壊れた家電直して展示しとこうって言ってたのに

男１ それで冷蔵庫拾ってきたの？

男２ ああ。男３と二人で拾ってきて、俺が直した

男１ ふーん

男２ 後はエアコンとか電子レンジとか、また拾いに行ってこようと思ってたんだけど

男１ あ、部室にエアコン欲しいね

男２ だろ？

男１ ポットも欲しい

男２ ポットか。いいな

男１ あとマッサージ器

男２ それはいらないと思う

男１ あったらいいと思わない？

男２ あんまり勝手なことしてると怒られるんじゃないか？

男１ 大丈夫だよ、今に始まったことじゃないから

男２ そうだな

 男３登場。

男３ ごめん、遅くなった

男１ あれ？　戻ってきたの？

男３ 何が？

男２ さっき来て、すぐ出て行ったろ

男３ え？　来てないよ？

男２ 何言ってるんだよ。さっき

男３ 今まで職員室にいたんだよ。来れるわけないだろ

男１ え？　でもさっき

男３ どうしたんだよ、ボケてるのか？

男２ おかしいな

男１ おかしいね

男３ おかしいのはお前らだよ。文化祭の話、してきたよ

男２ 劇なんかやらないからな

男３ あれ？　男１、話したんだ

男２ お前がさっき自分で言ったんだろ？

男３ 何言ってるんだよ？　今、職員室でその話してて、すぐこっちに来たんだから

男１ そうなの？

男３ どっか具合でも悪いのか？　頭が悪いんじゃないか？

男２ お前に言われたくないよ

男１ 俺、頭悪いよ

男３ ま、知ってるんなら話は早い。文化祭では劇をやることになったから

男２ 何でそうやって勝手に話を進めるんだよ

男３ 勝手じゃないよ。男１と相談したよ

男２ 俺にも相談しろよ

男３ だってお前、反対するだろ？

男２ 当たり前だ

男１ もういいじゃん。諦めろよ

男２ よくない。電気部なんだからもっと電気部らしいことを

男３ 固いこと言うなよ。展示は展示でやればいいからさ

男１ 俺、ＰＳＰ作る

男３ 本当に？じゃあ俺ゲームボーイ作る

男２ それは作ってもいいけど

男３ リサイクル感覚でエアコンとか冷蔵庫とか。そうだ、冷蔵庫にプリン入れといたんだ。試運転も兼ねて。冷えてるかな

 男３、冷蔵庫を開ける。

男３ ない

男１ あ、そういえばさっき

男３ 誰だ？　俺のプリンとったの

男２ え？

男３ 俺のプリン勝手に食ったのは誰だ？　男１か？

男１ 違うよ、そんなことしてないよ

男３ じゃあ男２か？

男２ バカ言うな。そんなことするわけないだろ

男３ じゃあ誰だっていうんだよ。俺達以外にここに入る奴なんかいないだろ？

男１ だって

男２ なあ？

男３ 何だよ？

男１ さっき自分で持って行ったんだろ

男３ は？

男２ お前、さっきここに来て、文化祭の話して、プリン持って出て行っただろ

男３ そんなことしてないよ

男１ でも男３だったよね？

男２ ああ、そうだった

男３ どういうこと？

男２ 俺に聞かれても分からんが

男１ 男３のそっくりさんがいるんじゃないの？

男２ そっくりすぎるだろ。本人だとしか思えないが

男３ 俺が来たの？　さっき？

男２ そうだよ

男３ どういうことだよ？

男２ 分からん

 間。

男１ 状況を整理しようか

男２ そうだな

男１ 一、男３のそっくりさん。二、男３の記憶障害。三、気のせい

男３ 一だろ

男１ なんで？

男３ 言ったろ。俺はここに来てない

男２ でもあれはお前だったよ

男３ でも俺、知らないもん

男２ 証拠不十分だな。どちらかと言えば二だろ

男３ 俺がボケてるっていうのか？

男１ 痴呆症なんじゃない？　ご飯食べたの忘れてて、ご飯まだ？　って言ったりしない？

男３ しない

男２ 病院行った方がいいんじゃないか？ついでに頭良くしてもらえよ

男３ できるならそうしてもらいたいね

男１ じゃあ三かな？

男２ あれが気のせいだっていうのか？

男１ そんなわけないからな

男３ まだあるぞ。四、お前らが嘘をついてる

男２ どういうことだ？

男３ お前ら、プリン食ったんだろ。それを隠してそんな嘘を

男２ いい加減なこと言うな

男１ でも一番まともな推理かも

男３ だろ？

男２ 嘘つくならもっとマシな嘘つくよ。それに勝手にプリン食ったりしないよ

男１ それも正論

男３ それじゃどうなってるんだよ？

男１ 探してくれば？

男３ え？

男１ さっき出て行ったばっかりだし。まだどっかにいるかもよ

男３ そうか

男２ 正体は不明だけどな

男３ よし、じゃあ行ってくる

男２ 見つからなかったら諦めろよ

男３ プリン取り返すまで諦めない

 男３退場。

男２ 何だかよく分からない話になったな

男１ 何だったんだろう、一体

男２ あ、文化祭の話

男１ 諦めろよ、せっかく脚本書いたんだから

男２ 何なんだよ？　あの脚本

男１ おもしろかった？

男２ それなりにおもしろかったけどさ。何で土下座？

男１ 思いついたから

男２ タカシくんの冒険って何？

男１ おもしろいだろ？

男２ コメントしづらい

 男３登場。冷蔵庫を開ける。

男３ ない。違うのか？

男２ 見つかったか？

男３ ここはいつだ？

男２ は？

男３ 今、どういう状況だ？

男２ どういう質問だよ？　それ

男３ いいから

男１ 男３、プリン盗んだ犯人追いかけて出て行ったろ

男３ やっぱり少し戻ってるな。じゃあまだその辺にいるかもしれない

 男３退場。

男２ 何だったんだ？

男１ さあ？

 男３登場。

男３ やっぱり見つからないよ

男１ もう戻ってきたの？

男３ もう？　校舎中走り回ったんだぞ

男２ 校舎中？

男３ ああ。それらしい奴はいなかったぞ

男２ お前、たった今ここに来たよな？

男３ またそんなこと言うのか？　来てないよ

男１ 男３が二人いる

男３ え？

男２ 確かに、そうとしか考えられない

男１ 今、男３がここに来て、出て行ったよ。多分そいつが犯人

男３ どういうことだ？

男２ 知るか

 男３退場。

男１ ドッペルゲンガーかな？

男２ 何それ？

男１ 自分の分身みたいなもんだよ

男２ お前はそういう変なことは知ってるんだな

 男３登場。

男３ どうなってるんだ、一体

男２ あれ？

男３ 何なんだ？　この冷蔵庫

男１ 冷蔵庫？

男３ 冷蔵庫に入ったら、教室の掃除道具のロッカーから出てきた

男２ 本当におかしくなったのか？

男３ 何言ってるんだよ、見てたろ、俺が冷蔵庫に入るの

男２ 見てないよ。お前はさっきプリン盗んだ犯人追いかけて出て行ったろ

男３ え？

男１ どうしたの？

男３ 俺が冷蔵庫に入ったって言ってたのはそういうことか？　時間が戻ってる。そんなことってあるのか？

男２ 何ブツブツ言ってるんだよ

男３ 確かめてみれば分かるか。どっちにしろここにプリンはない

男２ は？

 男３、冷蔵庫に入る。

男１ え？　何してんの？

男２ 男３、おい

男１ 入っちゃった

男２ どういうことだ？

男１ 男２、その冷蔵庫に何したの？

男２ 普通に直しただけだよ

男１ 冷蔵庫って人が入ったりできるの？

男２ 普通はできない

男１ ちょっと見てみてよ

男２ 嫌だよ、何か怖い

男１ 自分で直したんだろ

 男２、冷蔵庫を開ける。

男２ 普通の冷蔵庫だよ

男１ そうだな

男２ どういうことだ？

 間。

男１ 気のせいだってことにしようか

男２ そうだな

 男３登場。

男３ プリンあるか？

男１ 男３

男２ ない、けど

男３ ないか。もう一回だな

 男３、冷蔵庫に入る。

男２ あ、おい、男３

男１ 気のせいじゃないね

男２ そうだな

男１ どうしよう？

男２ どうしようって、どうしようもないんじゃないか？

男１ そうだな

 男３登場。

男３ やっぱり見つからなかったよ

男２ 男３

男３ どうした？

男２ お前は本当に男３か？

男３ どういう意味だ？

男１ 今、男３が冷蔵庫に入って行った

男３ は？　冷蔵庫？

男１ うん

男３ できるわけないじゃん、そんなこと

男２ それをやったんだよ、お前が。二回も

男３ やってないよそんなこと

男２ こいつは普通の男３みたいだな

男１ そうだね

男２ とにかく、冷蔵庫に入ってみろ

男３ え？　何で？

男２ いいから。プリン取り返せるかもしれないぞ

男３ 本当に？

 男３、冷蔵庫に入る。

男２ 本当に入った

男１ 入っちゃったね

男２ 掃除道具のロッカーから出るって言ってたか？

男１ うん

男２ まるでブラックホールだな

男１ そうか、四次元なんだ

男２ 四次元？

男１ この冷蔵庫とロッカーが四次元でつながってるんだ。だから通った時に時間がずれる

男２ タイムマシンみたいなもんか？

男１ ちょっと違うけど、似たようなもんかな

男２ てことは最初に現れた男３は未来の男３ってこと？

男１ そう考えるのが自然だと思う

男２ 確かに、一応の説明はできるけど、何でそんなことが起こるの？

男１ 俺に聞くなよ。お前が冷蔵庫直したんだろ

男２ 俺は直しただけだよ

 男３登場。

男３ おい、俺が来なかったか？

男２ たくさん来たけど、どれだ？

男３ プリン持ってる奴

男２ それは来てない。最初に持って行ったきりだ

男３ くそ、ここじゃないのか

男１ どうしたの？

男３ プリン取られた

男１ え？

男３ さっき俺にプリン取られた

男２ どういうこと？

男３ 会ったんだよ、俺に。多分未来の俺だ。過去に戻ってプリンを取りに来たんだ

男２ やっぱり過去に戻るのか

男１ あれ？　でもお前プリン持ってなかっただろ

男３ 戻ったんだよ、俺が来る前に。多分お前らが最初に会った俺だ

男２ あぁ、そういうことか

男１ でも取られたの？

男３ 取られた、俺に

男２ 何だかよく分からん状況だな

男３ 俺は俺からプリンを取り戻す

 男３、冷蔵庫に入る。

男１ カッコよさそうであんまりカッコよくない台詞だったな

男２ ああ

 男３登場。プリンを持っている。

男１ あれ？　男３

男３ やっと取り返したよ

男２ あ、そのプリン

男３ 俺から逃げられると思うなよ

男１ 相手自分じゃん

男３ いいんだよ。これで一件落着

男２ 本当にそうか？

男３ え？

男２ お前はどの男３だ？

男３ どういうことだ？

男２ これだけ時間を行ったり来たりして、おかしいことになってるだろ

男１ うん、自分に会うなんてありえないからね

男２ 実際、今、男３って何人いるんだ？

男３ 何人？

男１ どんどん増殖してる気がする

男３ ゾウリムシみたいに言うなよ

男２ でも、冷蔵庫に入った分だけ、男３は増えてるかもしれないんだ

男３ そうなの？

男１ 良かったね、分身ができて

男３ よくないよ、俺は一人で十分だ

男２ というか、一人じゃなきゃまずいだろ

男１ 時間と空間がゴチャゴチャになって矛盾してる。このままだと男３は消えるかもしれない

男３ 消える？

男２ 死ぬってことか？

男１ 死ぬんじゃない。存在が消えてなくなるんだ

男３ 消えるのか？　俺が？

男１ ご愁傷様

男３ ちょっと待て、困るよそんなの

男２ お前はいい奴だったよ

男３ 勝手に殺すな。どうしたらいいんだ？

男１ どうしようもないよ

男２ 元に戻したらどうだろう

男３ 元に？

男２ プリンを最初に戻すんだ。そうすれば

男１ これ以上冷蔵庫に入るのは危険だと思うよ。それに増えた男３が戻るわけじゃない

男２ そうか

男３ でもそれしか方法がないんだろ。俺、行くよ

男１ 待てよ、ちゃんと考えれば

男３ 早くしないと本当に消えちゃうかもしれないだろ。止めるな

男２ 待てって、男３

 男３、冷蔵庫に入る。

男１ どうしよう

男２ 引っ張り出せ

男１ え？　俺達まで巻き込まれるかも

男２ そんなこと言ってる場合か。早く

 男３登場。

男３ 見つけたぞ、俺

男２ 男３

男３ 俺のプリンを返せ

男２ やめろ、男３

男１ 話が余計ややこしくなった

男３ 出て来い、さあ

男２ もうどうにでもなれ

 冷蔵庫の中の男３を引っ張っていた三人、弾き飛ばされる。

男２ どうなったんだ？

男１ あれ？

男３ あ

 男３、床に落ちているプリンを見つける。

男３ 俺のプリン

 男３、プリンを拾う。

 終わり。